

1 開催日時

平成27年8月18日（火）午前10時00分から午後0時10分

2 会場

徳島県南部総合県民局 阿南庁舎 大会議室

3 出席者

(1) 委員 12名（7名欠席）

① 地域住民代表委員 12名

青木委員 上杉委員 尾崎委員 黒川委員 小林委員 榊野委員 鶴委員 殿谷委員
橋本委員 林委員 平井委員 町田委員

② 県委員 1名

小泉南部総合県民局長

(2) 管内市町長 5名

岩浅阿南市長 坂口那賀町長 福井牟岐町長 影治美波町長 前田海陽町長

4 会議次第

(1) 開会

(2) 議事

① 「徳島県南部圏域振興計画（案）」について

② 「徳島県過疎地域自立促進方針（素案）」について

(3) 閉会

5 配付資料

- ・ 徳島県南部地域政策総合会議設置要綱
- ・ 徳島県南部地域政策総合会議委員名簿
- ・ 平成27年度第1回南部地域政策総合会議配席図
- ・ 資料 1 次期南部圏域振興計画（案）
～「四国の右下」創生計画～の概要
- ・ 資料 2 徳島県南部圏域振興計画（案）
- ・ 資料 3 南部圏域課題解決プラン（案）
- ・ 資料 4 「徳島県南部圏域振興計画」（素案）に係る
パブリックコメントの結果概要について
- ・ 資料 5 徳島県過疎地域自立促進方針（素案）の概要及び参考資料

<発言概要>

(A委員)

Aでございます。よろしく申し上げます。私の方からは、1の「安全安心して暮らせる地域づくり」の(2)の「誰もが安全・安心できる暮らしの確保と向上について」意見を述べさせていただきたいと思っております。まず一点目でございます。皆さん、この手のリングを御存じでしょうか。御存じでしょうか。まあ、県の方、ここにお集まりの委員の皆様は当然御存じと思っております。オレンジリングでございます。厚生労働省の調査によりますと、平成22年、全国で65歳以上の高齢者について、有病率がなんと15%。約440万人の推計であり、65歳以上の高齢者の4人に1人が認知症、もしくはその予備軍という結果でございます。そして徳島県内、おおよそ6万人の方が、該当すると言われております。認知症は誰もがなり得るとも身近な病気で、また地域全体で認知症の方とそのご家族を支えることが、これから最も重要でございます。

そして、そこをお願いでございます。こちらの資料の課題プランのページ数でいいますと、7ページでございます、認知症サポーターの強化、かつこれをもっと、もう少し頑張っていっていただきたいと思っております。これはなぜかと言いますと、都道府県の全国のキャラバンメイト数、実は3月の時点で徳島県は最下位を脱出してございます。しかし、まだ現在、6月30日時点で36,762名ということで、サポーター数、まだ下から2番、3番目じゃないかなと推計しております。それをもっと力を入れて、これからの高齢者時代、認知症サポーターを増やしていこうではありませんか、というご提言でございます。そして増やすといっても、みんな誰でも増やすという意味では無くて、私提言したいのは、実は私も富岡東高等学校や新野高等学校でも、実はキャラバンメイトとして活動させていただいてございます。つまり若い力、教育においても、このオレンジリングをしっかりと、若いうちから教育していく、そういった視点が私は大事ではないかと考えてございます。

もし、今後起こりうる東日本大震災のような、東南海巨大トラフが起こった場合、必ずやボランティア力、また高齢等の方の避難所運営等にも、必ずこのオレンジリングプラスアルファが必ず役に立つと信じてやみません。どうぞそのへん、よろしく申し上げます。

2点目です。「交流が広がる地域作り」です。やはり県南部、地域特性を活かした、もっと学術大会や学会、誘致が私は大事じゃ無いかなと考えております。阿南は、昨年、女性会議、大きな全国大会レベルを阿南市でも開催してございます。そういった大会等を、是非とも、県南部にもっと呼び寄せていただきたい。で、ただ呼び寄せるだけではなくて、やはり特化した、地域に特化した、つまり自然を活かした分野ですね、室戸の方ではジオパーク、大変有名でございます。逆に言うと県南部、もう室戸と接しております。この阿南市長が以前、AMA、もっと室戸の方を考えろよと言われたように、広域で考える、連携をするといった視点で、学術大会・学会、自然に特化した分野での学術を是非とも行えるんじゃないかと、考えてございます。是非、そのへん、模索していただければと思います。

三点目でございます。もう少しだけ喋らせてください。

皆さん、これ知ってますかね。つぎはVS東京、VS東京の拡大ですね、もう私グッズをたくさん、貼ってですね、委員に行くたびにVS東京だよ、VS東京だよと常日頃から連呼しております。やは

り、県の新しい共通のコンセプトを、もう是非ともこれは県南部でも、この委員皆様で広めてください。でないと、やはりメディアを使い。県の職員が一生懸命やっても、なかなか、まだ知らないという方もいるかもしれない。そうでなくて、是非とも県民みんなで、みんなで統一した共通コンセプトをもっとやっていこうじゃないかという、ご提言でございます。

最後、今年の、徳島、牟岐の英語村の定着ですね。もうこれは、ずっと言わせていただいできております。たぶん、あとで委員の皆さん、ご発言があるかもしれません。これは英語だけでなく、地域交流もできる、先進的モデル、そしてグローバル人材化育成だと思っておりますので、もっと広く内外にPRをしていただいで、定着した英語の、人材育成、是非とも行っていただきたいと思っております。

ほんとの最後でございます。これは知事にお伺いしたいのですが、ネットのほうで調べますと、私も以前、この県南部の委員のところ、2回ほど発言させていただいてございます。デュアル・モーダル・ビークル、もうこれ、非常に心配してございまして、今日の徳島新聞もちろんでございまして、また、ネットでもたくさんでございまして。逆にこれは知事にお伺いしたい。是非とも、これは今が逆にチャンスだと思います。JR北海道が、もう止めるんだというならば、県とJR四国で、是非とも、日本初ですね、海部病院が出来るときにそこに合わせて、出来るような施策をやっていただければ、地方創生、観光にもなるし、逆に災害時にも役に立つ。そういった視点を是非ともリアルタイムに活かしていただければと思っております。

少し長くなりましたが、以上でございます。

(B委員)

商工会議所のBです。

会議所の性格上、企業とか事業所等に対する対応というのが会議所の役割なんです、やってきたことを言いますと、実は25年度末から阿南市さんと連携で津波災害地震対策と言うことで、ずっと調査活動をやってきてございまして、阿南市全体の、県から頂いた浸水予想図、あれを元にして、阿南市の13地域、全部で言えば22地域なんです、その被害予想状況を調査して、そこにどれだけの事業所、工場があるかと言うことで被害予想をまず立てました。

これは東日本大震災の例における、それを反省した中での対応なんです、そういう不安になる資料を見て、阿南市さんと連携してやっていこうということで色々したわけですが、一つは阿南市で大きな企業は、まず工業、その次に建設業、それと運輸業、医療、商店、事業所、これが大きな業種的な区分けなんです、東日本における失敗例から言えば、まず災害者を助けるのは行政の、人の命は行政ですることであって、事業継承を助けて、既に減災対策をしておかなきゃいけないところできてなかったというのが、世界的な資材不足と商品提供不足したということで、非常に大きな被害が広まったんですが、その例を私の方で調査して、阿南市としてその場合どうするかということを組み立ててみて阿南市さんにお話ししたんですが、まず東日本の例から言えば企業というのは、被害を受けてからでは絶対遅い、その前に減災対策をまずやっておくんであって、人の命は走って逃げたらそれで助かるんですが、企業は雇用してございまして、資料、機械、商品全てが被害を受けるのであ

って、阿南市でいえば工業都市ですからその工業が被害を受けた場合、税収も雇用も含めてものすごい被害になるわけなんです。これを早く助けて、30年以内に70%までに間に合うような形の減災対策を提言したいと言うことで、市長さんには結果報告は今年の3月にしていますが、一番の眼目は、東日本の例から言って、工業をどう助けるかということでございます。これは雇用も税収も含めて、まず一番に考えないかん。まずは高台移転策とか、今の予想図の中でした耐震対策あるいは津波が来たときの対策、そういったことが本当に今できているかどうかということの調査を全企業にやっております。その結果、大手の企業は全てできているんですが、小さい中小企業、特に地元の方はやはりその対策が60%もできてないということで、今後これをやっていく。そうしたら、もし被害を受けた場合でも、個人の雇用を守っていれば、自分の家を再建するのにも必ずローンが借りれるわけです。ですから今少々高台に対する住宅のお金がいったとしても、被害が来たときに自分でそれぞれ今だったら借っていくわけですから、行政は作るだけでお金はいらぬ。ところがもし来た場合だったら、それの方にお金が取られるわけですから、減災対策の一番大事なのは、自分の元気なときに行ってもらった場合には自己資本で行ってもらおうということ。被害を受けたときは行政の方が支援しなくてもいい体制になっておるということだったら、被害がものすごく押さえられます。それにもう一つは税収が守っていける。こういう視点で行けば、少々最初の減災対策の施設として資金が要ったとしても、被害を受けた後のことと比べたら何十分の一もお金がかからない、そういうことが我々も今度の調査でわかってきて、そういったことを市長さんにも提言したんですが。それと役割分担というのが、工業はそういった雇用と施設を守って商品提供をする、建設業は、災害をうける地域の建設業災害を受けないところの建設業を全て割り出しておりますので、もし何かあったときにはいちいち入札とかでなくて、その地域の建設業と契約を行政がしておいて即出動していただくと、そういった役割を各地域の建設業に受け持ってもらおう。運輸業、これも同じく被害を受けないところも割り出しておりますが、いちいち入札じゃなくても、すぐに緊急物資を運輸業に運んでもらう。それをいちいちルートに乗ってやってもなかなか災害救助できませんのでね。それから医療ですが、いくら近くにある病院に行っても、浸かるところの病院は助けるどころでなくて助けられるほうに回るので、浸からないところの、被害を受けないところの病院をそれぞれ役割分担で被災者を収容してもらおうと。東日本は総合病院にひとえに集中したために助かるはずの人の命が助からなかった。ですから総合病院は重い患者を優先的に診てもらおう。眼医者だろうが歯医者だろうが少々の擦り傷や骨折くらいだったらその方へ収容してもらおう。命の危ない人が総合病院に行って診察して、後は、緊急的にするのは近辺の専門の医者についてとりあえず緊急手当をしてもらおうと、そういった役割分担の組織を作っておいて、緊急時の場合には、とにかく担ぎ込むところを救急隊員の方に指示しておいてもらおうと、そういうやり方。

それと大事なのは商店街が、備蓄物資が避難所へ運んでいってもらうんですが、東日本で言えば、備蓄と言うけどいつ来るかわからないところに2年分か3年分のような備蓄ができるはずがない、場所がないわけで、ですから地域毎に、浸かるところの商店が2/3あるんですが、そこに持っている商品を緊急物資として被害地へ緊急に提供してもらおう。値段については、請求書が来れば行政が見舞金なり何なりで払えばいいわけですから。備蓄しておいてやりますというのは平和なときの考え

方で、いざとなったら、商店が持っているものが備蓄と考えれば、後は運送屋が運んでくれて、お願いしてどんどん被災地へ、近くの商店が被災地へ運んでもらう。ですから2/3の飲食、その他の商店から言えば、少々の被害があっても余りあるくらい阿南の場合はあるわけですから、いちいちよそこから物資頂いてという段階では間に合わないと言うことで。骨子はそういうことで、全議員を紹介して阿南市さんには渡してあるんですが。

他にも色々あるんですが、主なことは減災してまず市の税収元を助けて雇用を助ける、後は自分らで立ち直っていただく、雇用を助ける。商店が持っているものは救援物資と考えて、いち早く被災地へ運んでもらう。運ぶのは運輸業がそれぞれ近くの運送業に運んでもらう。建設業は言わなくてもどんどん機械を持って行って車が入れるように、どんどん整備してもらおうと、そういうような役割分担を案として阿南市さんの方へ提供させてもらっています。これにつきましては、会議所がこの1年半やってきたことをちょっと報告だけさせて頂きました。

(C委員)

私は主婦の立場からやはり一番の安全・安心暮らせる地域づくりというところでちょっとお話しさせていたきたいんですけど、南海トラフ巨大地震に備えて防災訓練は色んなところで度重なって行っていると思うんですが、果たしてそれが実のあるものであるか、地域の長老が取り仕切っているところがかなり多いのではないだろうかと思うんですね。

その中で、同じ防災訓練をするんであっても、避難所ですね、弱者に対する避難所づくり一つにしても色んな問題が提示されていて、東日本大震災の時にそれが活かされなかったということで、弱者の方達が避難所の中から、かなり多くの方が外に出て生活しなければいけないような状態だったということは、取り仕切る方達の意識の問題じゃないかなと思うんです。

そういう意味で、せっかく防災訓練をするのであれば、もう少し身につくような防災訓練の仕方を考えたらいんじゃないかな、なんていう風に思いながら日々おりますので、一言申し添えておきます。

それから雨がですね、すごい雨がこの頃ようけ降りますよね。一昨日の雨でも、うち辺り生活道路がなくなる、何回も県に方にもお願いしてあるんですけども、百軒近くの家が動けなくなるということ自体は、なんてことない普通の生活ができない、そういう問題もございますので、ぜひ用水路、畑田川沿岸の用水について、もうちょっと考えていただかなかつたら、本当に陸の孤島になってしまって、病人が出た場合に、ヘリが飛ぶとかおっしゃって下さるんですけども、ヘリが着くところもなければ山の上に着くわけでもないし、ぜひ早急に、一年に3kmくらいしか進まないような改修ではなかないかなと思いますので、ぜひもう一度早急に検討をお願いしたいなと思っております。

それから、県南ならではの地域ということで、農業の問題が出てくると思うんですが、雨だけでなく、天災だけでなく、鳥やらサルやらシカやらで、家の前までサルが出てきて、タマネギは抜かれるし、家で食べる野菜さえもできないという状態ではもうかる農業どころではないので、ぜひハンターの養成をしていただきたいと思うんですね。

地域にやはり何人というような目安でも立てていただいて、ぜひ集中的にシカやらサルやらその辺

ですね、捕獲していただくような方策なりしていただかなかつたら、この間のような事故が起きて、人が亡くなるような網ではいけないと思いますので、その辺もぜひ御協力の程よろしくお願ひしたいと思ひます。

それともう一つ、v s 東京ということと言葉はよく聞きますが、果たして県民の方がどの程度 v s 東京という意味をわかっているかということについての広報が少ないように思ひますね。ぜひその辺もよろしくお願ひしたいと思ひます。

それから、今、東京～徳島しか飛んでいない便ですね、もう少し地方にも飛ぶような飛行機便ですね、考へて頂いたらいいかなと思ひますね。私は東北の人間ですけれども、東北の中では徳島というのはアメリカに行くくらいに遠いように感じるんですね。「大阪から2時間ですよ」と言うのと「そんなに近いんですか」というくらい、皆認識を新たにしてもらえるくらい、この間も仙台から雀踊りが徳島に来ておりましたけれども、やはり1年に一遍の交流ではなかなか地域の住民の中には浸透しませんので、この辺もぜひどうにか広報活動の方を県の方としても頑張っていたらうれしいなと思ひます。

(D委員)

私は3年前に県外から、横浜から徳島県に引っ越してきた県外移住者です。

今は仕事は、農業をやりたくて、農業ができるところを探したら、関東からだ徳島にちょっと気になったので、徳島に引っ越してきました。

今は、農業だけでは暮らせないというのが一般的なんですけれども、一応農業を主として、それを作物を作る、そしてそれを販売する、加工する、流通させるということを小規模ですけどやることによって、一応生活は成り立っています。

色々被害とかもあつたりするので、本当に農業だけでは暮らせないという一般論はやってみてすぐわかるんですけども、工夫次第では暮らせるということで、そういうものを徳島から発信する、こういう暮らし方もあるんだよと都会の人に発信していきたいなと思つて仕事をしています。

私の方からは5番の支え合い次世代につなげる地域づくりということで、私は県外からの移住者ということで移住者という立場と、子どもを育てていますので、幼稚園児と小学生がいて、子育てをしている親としての意見を述べさせていただきたいと思ひます。

移住定住の促進についてですけども、私は県外からの移住者なので、県外から、外から来る人の欲していることなどが経験者としてすごくよくわかっているつもりです

申し訳ないんですが、移住促進というのを掲げている割には外から来る人のニーズを全然よくわかってないんじゃないかなという部分が実はすごく多くて、県内であれば車を持っているのが当たり前、一人一台が当たり前なんですけど、都会は逆に車を持っていないとか、電車とかで全部生活が成り立つような生活をしている人が、じゃあもし徳島に来ようかなと思つたときに最初から車の話をされると、こちらでは当たりのことが都会の人には当たり前じゃなかったりするので、すごくそこでもう徳島ダメだという人がいたり、本当に些細なことなんですけど本当にそういうことが多かつたりするので、そういうのを経験者として情報として提供できたらいいなと私はよく思っています。

今人口減で、どの自治体も徳島県に限らずどこの自治体も出生率を上げるのと同時に移住者を呼び込むということで、これって言い方を変えれば人取り合戦みたいな状態だなと私は思うんですけども、どこでもそれをやっているの、今までどおりの戦略ではどこの地域とも変わらないので、全く特徴もなく、移住者を増やしたいと願うのであれば、本当に徳島モデルではないけれども、徳島だったらこんな暮らしができる、徳島を選んだらこんな生活ができますよというのがないと、なかなか全国の中から徳島を選ぶという人は少ないんじゃないかなと思います。

徳島の県南の良さ、暮らすことのメリットというのをもっと掘り起こして情報発信していかなくてはいけないと思います

私は、元々県南がすごくいいところだとわかった上で来たわけではなくて、住民の有志の団体が移住者を受け入れますという民間の動きをしていたところに私はうまくマッチして移住をしたので、暮らしてから県南の良さがすごくわかって、こんなに豊かなところはないと思います。

海もある、川もある、山もある、空気がとても綺麗、何よりも都会の人からしたら不便かも知れないですけども、不便だから自然が綺麗なままで残っていて、海的な暮らしもできる、山的な暮らしもできる、川を活かした暮らしもできる、本当に色々な自然を活かした暮らしができるんですよ。

だけど、なんか全然情報も発信していないし、申し訳ないけれども暮らしている人は「不便だ不便だ」ばかり言うし、すごくもったいないことをしているなと思います

県南の多くが自然に恵まれていても、不便だということも含めて子どもがどんどん減っていて、どうしても出てしまっているのが多いなというのが私は感じていて、小規模校がどんどん多くなっているんですよ、小学校とかでも。

私は横浜にいるときは、横浜の普通の規模、学年でいえば100人、150人で、3クラスも4クラスもあって学校全体が千人くらいいるような学校に子どもが行っていて、今全校生徒20人という学校に行っています。

そしたら、全校生徒20人で当たり前ですけど複式学級で、なんじゃこりゃと思ってすごくびっくりしたんですけども、小規模校がこれからも増えるかも知れない。増えるということは、複式とか都会の人が経験したことのないような学校とかで暮らすことになると思うんですけども、それであれば、小規模校の良さを何か見つけてそれを活かした学校づくりや地域づくりをすることによって、そういう子育て環境を県南でうまく作れば、ここで子育てしたいなと、都会の普通の学校とかではなくて、ここでこんなに自然が沢山で、人数は少ないけれどもこういう教育環境があるんだという県南モデルができれば、ここで子育てしたいと考える人は増えるんじゃないかなと思います。

今のままではどんどん子育てがしにくいとかマイナス面ばかりが目立って、産みづらい、育てづらい、人が減っているところには人は来ない、そんなのは全然魅力がないと思う。

でも魅力がない地域じゃないので、もっとうまく魅力を組み合わせて、県南モデル子育てしやすいという地域にできたらいいなと思います。

本当に都会とかでこういう環境で子育てしたいっていう人は多いんです。それは私すごくよくわかるし、私が情報発信をしているというのものもあるんですけども、問合せとかがすごく実は来るんですよ。

個人的に、全然知らない人がブログを見ましたとかツイッターを見ましたとかすごく問合せが来て、こういう暮らしを欲している人は多いんだなって思うんだけど、でも県南にぜひ来てくださいというつなぐ機関がないので、なかなかつないで移住をしてもらうというのができないんですけども、問合せが来た中で既に5組か6組移住が実現しているんですけど、残念ながら徳島県では無いではないんですね。他の県に私はつないじゃってるから。でも6件くらいは既に移住とかを完了している家族がいたりします。

問い合わせしてくるということはその気があるのだから、そこでうまく県南の、例えば子育て、こんないい環境がありますよとかこういう暮らしができますよとかうまくつなげられたら、もしかしたらその5組6組は徳島に来たんじゃないかなとちょっと残念でならないんです。

都会のニーズもわかりますし、情報発信も多少はできますので、求めているものは自分が経験者なのでわかっているつもりなので、その辺をうまく具体的にどうやって移住者を呼び込むか、移住者というのはこういうものを欲しているからこういう徳島の良さを発信して移住につなげるということをやっていくのが必要かなと思います。

とにかく、都会で暮らしていて子育てに求める環境、こういう暮らしがしたいという人の中には、ほとんどが農業、仕事としてまで生業としてまで農業といわなくても、土に触れる暮らしとかをしたいという人がすごく多いので、そういう部分をもう少し、徳島だったらできるよという発信ができたらいいなと思っています。

(E委員)

D委員、美波町に来ていただければと思います。移住コーディネーターのEです。そのつないだ方、全部、これからうちにください。ぱっちりお世話いたします。今言われたこと、全部パーフェクトにお世話させていただきます。ということで、あと、もうなんも言わんでいいかな、とも思いますが。

それでたぶん、こういうふうに移住コーディネーターが増えてくると思うんです。ただ、問題がありまして、もうIターンして30年、移住、空き家のことをやってるんですけど、ここに来て、自分では、今までの経験で、色んなことをクリアできるんですけど、すごい大問題が、あの問題が起こったときに、一人で解決できないんですね。個人で、で、どういった事が起こるかという、色んな事が起こります、問題が。で、弁護士が必要とか、それからカウンセラーが必要な事ぐらい、心理的な事も起こってきます。そういったことを、町ではちょっと無理と思うんで、県で、そういった事をフォローできるようなところを作っていただければ、一番いいんじゃないかと思っています。

次は、もう移住、これも全国でやっているんで、次は面白くやらないといけないなあと思って。もうすぐ帰られるんですけど、ドイツ、フランス、シドニーの家族。それ一家族で、そんだけの家族なんですけど、全部、徳島、美波町で、2ヶ月、短期移住されました。それが、毎日毎日、ものすごく遊んでいるんですよ。モニターさせていただきまして分かった事が、とっても怖いんですけど、彼らが、”Eさん、これ、みんなに連絡していいか”と言うんですよ。で、困るって言ったんですよ。その、短期移住、観光型短期移住の、その用意が出来ていないんですね、こちらとしては。それを、これから用意しないといけないなあ、とは思っているんですけど、じゃあ夏だけに集中されるとすごい

困るので、それを課題だと思って。それから、こうなんです。皆さん、世界中の方はネットで、あの一軒家を借りるとか見てるんですね。あの、このごろ出てるんですよ、a r i b u b、私もびっくりしたんですけど。これねえ、大阪がやってますけど、是非、旅館法の改正を、徳島もやってもらいたいですよ。問題は色々出てくると思うんですけど、短い期間、自宅をシェア出来る、それからホームステイとか、そういうあれじゃなくって貸せるっていう形のを、あのさっさとやっていただかないと、これとっても間に合わないと思っていますので、それを早くお願いしたいと思います。

それからあともう一つ、とってもいいと思ったんですけど、南部圏域課題解決プラン、これに、各担当と各町の名前が出ていますので、これ面白いなあと思わせていただいているんです。これで、どのくらい皆さんが力を入れて、あっちこっちの温度差と、どこに言っていけばいいか、どういう風な取組されているのか、とっても分かって、これとってもいいなと思っていますので、是非、これ続けていただきたいなと思います。

(F 委員)

今年から新次元林業プロジェクトがスタートしました。60万立方の木材生産が目標ということで、主伐ということを明確にしております、再造林によって循環型林業を推進していこうということになると聞いています。今の林業は伐採するところから始まっていますが、主伐、造林、間伐と繋がっていくサイクルを取り戻していくことがこのプロジェクトの目標である木材の増産や雇用の安定にもつながるといえることになると思います。今本当に大事だと思いますので勿論、再造林を進めていくということについて、何らかの指針が必要だとは思いますが、南部地域は非常に恵まれておると思いますが、町の造林することに対する単独の上乗せの補助制度ができています。また、那賀町には皆伐に対する補助もあります。本当にありがたい、我々としてはこれを活用して、プロジェクトに対応していかなければならないと思います。それと林業には、長いサイクルと1年のサイクルがあり、これを一部壊しながら、変更しながら事業を進めています。これはもう、1年中木材を搬出するというもので、木材の安定供給のため、一番の問題は人手不足ということで、これを補って、1年を通して作業が偏らないように、作業を平準化していく、事業量を確保していくということで、私どもの組合の運営も安定させていきたいと、そういうふうに取り組めます。担い手については、これはもう募集が始まっていますが、徳島の林業アカデミーが来年から始まります。これに非常に期待しています。勿論、協力できるところは協力していこうと思っています。このことが、8月11日の業界紙である木材新聞に、徳島県の取組みとして紹介されておりました、同じ記事の中で、那賀町では9月にリアル林業体感というのが開かれます。これは山武者が中心となって開催しますが、林業に興味のある人を募って、林業体験をしてもらうということで、人を集めるために大阪からの無料のバスを出すということです。このことについて、記事の最後に書いてあるんですが、読ませてもらいますと、「施業部門の強化に向けた独自の挑戦が始まっている。商売人の当然の対応であり、第三者に頼っていたのでは埒があくはずもなく、自ら勝機を取りに来ている、こうした動きに各地の森林組合も呼応し、木材の生産強化に舵取りをしていけば国産材を取り巻く状況は劇的に変わると考えている」と、これは森林組合もとちゃんとせえということだと思いますが、県は大きく舵を切ったと思います。私も2年ぐら

い前に舵を切ったつもりなんです、実際あまり結果が出ていないので辛いところですが、劇的に変わることを目指してやっていこうと思います。林業の側からいうと、以前の言い方では林業振興による地域の活性化ということがよく言われましたが、今は森林林業を中心とした地方創生の実現を目指していくということが大きな目標という言い方になると思います。山の現場から加工、利用という流れの中で、まだまだ色々な対策が必要なわけですが、循環型林業を目指していくということ、これは、昔は勿論循環しておったわけで、当たり前的事なんです、これを目指していくということは、我々にとって基本になるものだと思います。非常に大切なことだと思っています。力強く進めてもらいたいと思っています。以上です。

(G委員)

海陽町から参りましたGと申します、よろしくお願ひいたします。

私はですね、課題解決プラン1の安全、安心して暮らせる地域づくりの2番にあります、健やかに暮らせるというところですね、私の職業が、地域総合型のスポーツクラブでクラマネをやっております。勿論、指導も実際に行っておりますので、皆さんに健康で健やかに暮らせる地域づくりが課題になっていますので、その辺をお話しさせていただきたいと思っています。で、徳島にも健康とくしま21というプランがありまして、ここにも生涯健康徳島を目指しての実現のために、生活習慣の改善であるとか、運動の習慣化というのがあるんですけど、実際、皆さん運動がいいというのはわかってるんですけど、実際に習慣づけてできているっていう方が、この中でも何パーセントいるのかなと、こういう所に来たら思うんですけど、そういう方たちに幸せに暮らせる徳島づくりということでですね、プランを掲げてるんですけども、実際忙しい皆さんですので、そういった方々にどうやって時間を作り出していただけるかということで、最も効果的な方法が、健診とか、海陽町でも特定健診を行っているんですが、カウンセリングがあります。その時にですね、こういうクラブと医療機関が連携して実際にその時にその方の生活改善を話すだけでなく、そこで少しでも運動してもらおうことが、とても動機付けに効果的だと思います。というのは、私が大阪におりましたときに、医療保険の関係のところで仕事をしておりまして、健診の時にカウンセリングを行って、そのまま運動まで教えて、次のアポを取って1ヶ月後にまたお越しいただくという感じですね、システム化したところで働いていたので、そういった場合、半分ぐらいは運動を習慣づけてやっていただけます。1年後まで続く方はなかなか難しいんですけど、そういう感じで、自分の結果を見たときに実際にやらないといけないという動機付けというのがとても効果的だったので、そういうシステムを作っていくというのが大事だと思っています。海陽町では特定健診の場所と私のスポーツクラブが隣接しておりますので、健診後に覗きに來られる方がおいでます。で、そのままジムを体験していただいて運動を習慣化していただくというのが現状となっていますが、それがシステム化、具体化されておられませんので、是非今後、医療とこういう総合型のフィットネスジムが連携して取り組んでいただきたいと思っています。

もう一つなんです、さっき移住者の話があったんですけど、私も移住者で、よく大阪の方から聞かれるんですけど、「どうですか、不便は無いですか」と。逆に日常生活では便利なんです。ていうのは、海陽町に住んでるんですけど、車で端から端まで10分で行けるんですね。ですから生活環境

には殆ど5分以内で困りません。勤務場所からも5分あれば家に帰れる、こんな幸せなことがあるのかなと、前は1時間もかけて電車で通ってたので、今はネットがとても便利なので、何でも買物はネットで買えます。ただ、市内に行くとき、大阪に帰るときがとっても不便なんです。これが1時間で市内まで行けたらもっともっと観光で人も来るし、移住者も増えると思います。1時間では無理という話なんですけど、本当に道路があと何年経ったらもっと便利になるのかなと、毎日思っています。是非、その辺を早めていただければ、もっと移住者、観光者が増えると思います。

最後になりましたけれども、こちらの「ひと・まち・つながり防災フォーラム」、今週の日曜日に防災フォーラムを実施します。何でスポーツクラブが防災のことなのということもよく聞かれるんですが、陸前高田から仮設住宅に住んでる方をお招きします。4年経った今でも仮設住宅暮らしている現状を知っていただきたいということで、今回呼ばさせていただきました。それと、この下に書いてます災害時、避難時でも運動が必要なんだよというところで、私たちが体を動かすということ、そういった取組もやっていますので、是非、時間がある方はお越しいただきたいと思います。よろしくお願ひします。

(H委員)

お世話になります。私は「もんでこい丹生谷運営委員会」の会長です。平成20年から活動しております。保健師をしておりました。平成20年に東京からジャーナリストの荘田さんという方が那賀町に住民の健康を守る保健師ということで取材に来られました。そこで、那賀町はお年寄りばかりで田畑はどんどん荒廃して、耕す若者は町に暮らして、このままこの町が消滅していく、本当にこれでいいのって私たちに問いかけられました。これでいいと誰も思っていないんですが、実際どうしていかかわらず、そうしているうちに、荘田さんがおばあちゃん達に野菜を担いで東京に出ておいでよという声かけられまして、町長に相談しましたら、町長は那賀町にはいっぱい色々な組織、団体があって、みんながそれぞれに活動している、それを一つにまとめてみろってということで、「もんでこい丹生谷運営委員会」というものを立ち上げました。そして、東京へ那賀町をまるごと持って行きました。で、その活動が現在まで続いております。

その活動の中から感じる事なんですけど、私たちはどちらかというとハード面でなしにソフト面の住民の意識を変えるっていうところに重点を置いて活動しております。この中でメインはミュージカルです。小学生、中学生、それから78歳ぐらいのおばあちゃん、18人ぐらいがミュージカルをしています。元ふるさとキャラバンの方が演技指導をして下さって、今まで、県外、県内で十数回公演をしています。9月6日にも東祖谷中学校へ公演に行きます。今は夜な夜な練習をしています。で、こういうミュージカルをすることによって、地元の小学生や中学生も一緒に参加してもらって、一緒に歌を歌ったりダンスをしております。そうすることによって、子どもたちの意識も変わってきました。那賀町を愛する心っていう弁論大会があるんですけども、このミュージカルに参加してくれた子どもたちは那賀町に帰ってきたいということや、那賀町の素晴らしいところを発表して下さっています。また、高校生にもボランティアでこの活動に参加していただきました。那賀町の高校生、中学生はボランティアスクールという授業がありまして、ボランティアの意識がすごく高い、浸水被害があった

ときにも小、中学生が高校生が親と一緒に来てボランティアをしてもらうということで、ふるさとに対する思いがすごく強いです。震災でますます地域の繋がりが再発見できたっていう子どもさんもおられました。また、今年は成人式でもミュージカルをさせてもらいました。いつもはミュージカルは1時間近くあるんですけども、今回は15分ものということで短くしまして、那賀町の良いところとか、現状を訴えて、もって来て欲しい想いを伝えました。すると、若者の意見では今まであんまりもって来たいという意見は無かったんですが、那賀町にもって来たいとか、那賀町に就職したいとか、都会へ出て必ず帰ってきたいという声が半数近く聞かれました。ということで、若い人の意識を変えていくということが大切だということを、私たちはこの7年間で、お年寄りも勿論ですが、退職した人、若い人、結婚していない人の心を動かして、那賀町に帰ってきてほしいという想いを住民とともに伝えていく、役人だけが言うんでなしに住民達も意識を変えてお互いにみんなが伝えていく。

那賀町にもって来てても仕事も無いのにつてすぐ言われます。仕事は行政も考えて下さってますし、県の方も考えて下さってますので、私たちはとにかく住民の意識を変えていこうっていうところに重点を置いております。その結果、少しずつですけども、那賀町に帰ってくる若者も増えております。昨年からは近畿や関東のふるさと会も結成しました。そして、関東ふるさと会では那賀町出身の特に木頭出身の若者が、田舎に関心のある若者に、那賀町に移住してもらうような活動を展開してくれております。ということで、私たちは、ただ、もって来いっていう意識を変えていく活動なんですけども、色々な人の力を借りて、すごく大きな成果をあげつつあります。

それで、この活動はいつまで続けたらいいんだろうかとみんなで話合うんですが、やっぱり、人が増えなかったらこの活動は止められんと言われているので、死ぬまでせないかんのかなという感じでやっています。やっぱり今も移住・交流の話が出てるんですけども、やはり、那賀町も移住・交流の担当者がいるんですけども、なかなか、那賀町全体ではわかりにくい、やはり旧町単位で移住担当者であったり、コーディネーターであったり、E委員さんのような方が地域に一人ずつ、旧町単位でおったらいいなというような話も出ておりますので、今後そういうきめ細かなサービスができる担当者をお願いしたいと思います。

それと、去年台風で驚敷地区で被害が大きかったんですけども、この被害が今年度もありまして、年内に2回も浸水被害があるっていうことで、住民の方は浸水被害の無いところに移りたい、ここへもって来いと言えないということが聞かれます。できるだけ早く安全、安心な災害の無い町に、是非早急に取り組んでいただけたらと思います。以上です。ありがとうございました。

(I 委員)

I です。まず始めにお礼を言いたいと思います。口坂から四つ足まで走っておりますと、白線が消えかかっていたり、消えていたりしている部分が多いんですね。で、県の方に何とかありませんかねっていうお願いをしたら、改良するところからではあります、白線の引き直しをしていただいていますんで、特に、雨の時や夜間は走りづらいんです。で、まだまだたくさんありますので、予算をつけていただければとありがたいということと、それはお礼なんですけども、私は林業をしておりますので、林業の活性化ということで、やはり、一番元になるのはひとつづくりじゃないかなと思うんです

けども、F委員さんも言われたとおり、たくさんの方を林業にっていう希望がありますが、なかなか県の方のお話しも聞くと、すぐには右上がりにはいってないようなんで、新規就労の方に関しても30パーセントぐらいの方が辞められるという話も聞きますし、やはりそれは地域で頑張らなければならぬと思うんですけど、その中で、山武者の方が頑張ってくれてるんですけど、私も色々な人にお話を聞いたり、現場を見せていただいたりする中で、これはもうちょっと勉強して頑張りたいという所がありますので、それはまた後でお話しさせていただければと思います。

それで、この資料を見ていますと、高性能林業機械が入ってるんですけども、林業は高性能林業機械だけでなく、やはりこれからは主伐ということもありますので、植え付けから始まっていくつかの作業過程もありますので、そういう方もやはり必要なので、高性能林業機械をやりたいと思って来ても、あんたこれしなさいよって言うと、「ん」っていうことにもなっていますので、こういう写真を見ると飛びついてはくれるんですけども、後の作業が一番しんどいので、そういうところのひとづくりっていうのが大事だということと、いつでもコンテナ苗で植えれますよっていうこともあります。林業には年間の作業順序っていうものがありますので、この時期にはこれっていう、ただ切っただけではっていうこともありますので、それと、雨対策っていうこともお話しが出てまして、何十年も前から雨対策っていうことが出てるんですけど解決に至ってない。それで、切るだけで無くその時期にやらないといけない作業っていうのがそこに入ってるんですね。そういうことを組み合わせてやることによって、解決できるんじゃないかと思っています。

先ほどD委員さんもおっしゃいましたが、どこの県でもやってるんですよ。どこの県でもやることでない、徳島でやりたいという人を呼んでくるために、何をせないかんかとうことを、その辺をもうちょっと考えて欲しいなと思います。で、色々な協力隊の方もどんどん入って来られていますし、県外でもたくさん入ってきています。異業種の方がものすごく入ってきてるんですよ。そういう人が山とかにすごく興味があって、入ってこられてますので、どうしても徳島でなきゃいやだというところを、県の方も、町長さんも、もっともっと頑張りたいと思います。

で、この前、別の会なんですけども、ものすごいショックを受けたんですけど、実はここにおいでるK委員さんに写真を見せていただいたんですけど、山の木を切った後がもう全然草が生えていない。草が生えていないっていうことは、これはずんずんずんずん那賀川に土砂が入っていつているということなんです。それで、那賀川をずっと木頭まで見てみますと、何十年前に比べてものすごく土砂が上がってきてるんですね。こんなに橋脚が高くて恐ろしいと思っていたところでも、今は飛び降りても何ともないわっていうぐらいの所まで砂がどんどん入っていますので、やはりそれをどのようにして林業に従事している人にも、私たちにも、どのようにしたら山が健康になって、山に土砂が流れ込まないようにするのかということをやっぱり考えなきゃいけないことだろうと思っています。

そういうことで、この写真を見て疑問に思うことは、3ページの高性能林業機械の作業道なんですけども、ここじゃなくて、違う場所だったら、もっと安く使えるんですよ。あんまり急なところだったら崩れていつってしまうので、その辺の勉強もやっていただいた方が、徳島のV Sに繋がるんでは無いかと思います。

それでもう1箇所なんですけども、シカのところがあつたと思うんですけども、5ページですが、

つつつるになっていると思うので、場所を選んでこういうシカの牧場を作っていないと、これは少し急峻なので、これは下に道が通ってたと思うんで、そういうことも考えて、林業は木を切って植えるだけでなく、川上から海まで全部に影響が出ますので、そのところをもうちょっと考えていただきながら、やっていただけたらありがたいと思います。以上です。

(J 委員)

C 委員さんがおっしゃった防災訓練のことだったんですけど、何頁だったか、子ども・高齢者・障がい者・女性などを見守るっていう風を書いてある。ちょっとあらっと思ったのが、女性もきっと主体になると思うんです。子ども達を主体にした防災のワークショップなんかが開かれるんだと思うんですけど、障がい者の方も巻き込むような、主体として巻き込むようなシステムがあれば、きっと防災についての魅力ある地域になるんじゃないかなと思います。

それと前回も言ったかも知れないんですけども、外国から来た人ですね、こないだあの文化庁の日本語教育大会のパンフレットの表紙にこんなのがありました。日本に住む人は日本語が使える当たり前だと思っていませんか、というのをお書きしてあったんですけど、たとえば住めば言葉がわかるようになる、理解できるようになるっていうのをなんとなく期待を込めて思ってしまいがちですけども、特に研修生は、週に1回ここに来るときしか日本語を話さない、仕事先はほぼ日本語を喋ることも聞くこともないので、聞き取りが苦手だ、ということがあります。ですから、日本語が苦手な方たちを巻き込む防災訓練をしていったらばどうかな、と思ったのですが、そのことも考えていただければと。それから今少し思い出したのですが、エリアメールというのが時々防災でやってきますが、あれは日本語だけなのかなと、例えば中国語システムの入っているモバイルとか、どのように入っているのか不安になりました。

もう一つ、県南ならではの、スポーツの方たちの合宿を誘致するって話がありましたけど、スポーツだけでなく文化団体、ブラスバンドとかオーケストラとかコーラスも合宿するので、自然豊かな所で合宿できたら、楽しみに観光を兼ねて来る方がおられるかもしれないので、その方面にも誘致をなさっていったらどうかな、と思いました。

もう一つ、NPOについても書かれているページがありましたけど、私たち夢ホール市民協議会は、平成15年の3月にNPO法人になりましたが、NPOになったから何かメリットがあったかという、ほぼ無くてですね、事務量はとっても増えて、社会的責任もあります。でも、任意団体であっても、同じように扱われている、公的助成も結構あります。NPOになってどうだったのかな、と思うのと。それからNPO法人となると、私たちは常に、税制改革はなされたと思うんですけど、それ以外の部分で、NPO法人とどう向き合うのか、なかなか整理されていないように思います。例えば法人といえ、NPOというのは、特定非営利活動法人なんですけど、営利団体として一応認められ、特定を付けて非営利団体ですので、何かこう、優遇措置があるので結果オーライかなと思うんですけど、そのたび毎に、私たち特定非営利活動なんですけど、まずは営利団体、あなたたちは営利を目的としている団体と同じです、と言われて、いちいちこう使用を禁じられていますので、税制改革はできているのかもしれませんが、周りの、どういう風にNPOと向き合うのか、という整理がなされて、と

でも大きい問題かもしれないんですけど、考えていただければなあ、と思いました。以上です。

(K委員)

標高1308mで仕事をしておりますと、暑さを感じません。今朝も4時から1628の高城の山へ登って日の出の写真を撮りましたところ、早速A委員さんにコメントいただき、いいね！を押していただきました。

私はいつもこの会議にね、山の上から降りてくるのが、知事さんにお会いできるのが大変楽しみで嬉しく思っております。ありがとうございます。私山が好きでね、最近山の登山客がですね、山ガールと言われるように非常に多くなっております。それに伴い遭難者も大変増えているのも現状であります。私は前回森の番人として4月から勤めておりますファガスの森高城、森の玄関口であるビジターセンターになんとか来て欲しいなど、質問をさせていただきました。その後の経過をお聞かせをいただければと思っております。

2点目でございますけれども、徳島県希少野生生物の保護及び継承に関する条例が平成18年3月30日に県条例第18号で定められております。私も平成22年の3月から巡視員をさせていただいております。しかしながらですね、会合も非常に少なく、何やっとなかなと思っておりますのでね、やはりこの植物というのはですね、色んなことを教えてくれるんです。人間はちょっと隠すところがあるかもわかりません。でも植物は、先ほどI委員さんがおっしゃったように、山が崩れてきておれば何かが起きています。山は今警告しております。植物も今警告をいたしております。どのようにこの希少野生生物保護のですね、会合を続けていかれるのかをお聞かせをいただきたいと思っております。以上でございます。

(L委員)

3点ほど発表させていただきます。まずはじめは、那賀川の放流対策についてです。先般の台風でも、知事、早朝から駆けつけていただいて現場みていただいてありがとうございます。ちょうどこの前も国交省の調査団の方が加茂谷と鷺敷に直々に来ていただいて、現場の生の声を聞いてくれて、みていただいたんです。そのとき、加茂谷の中学校の辺りいつも全国ネットで浸かる中学校という悪いイメージであったんですが、こういうのが住民には配られて、心強い設計図みたいなのもいただきまして、加茂町の中学校の辺りの方は、この土地って言われたら満場一致でみんなが協力をするので、是非ともその工事を完成してくださいと言っております。5年を目処につけると、その調査団の方も計画をしているということをおっしゃっております。ああいう工事で5年というのは非常に速いということで、有難いなって言んですが、浸かった人は、あと5年間、10回ぐらい来るんですよ、これは速いですか、って。中学校の前の佐々木さんというお婆さんは、やっとながしけてやっとながしたのに、この辺でうちだけ浸かったんよって言いました。ほれがまだ夏のはじめだったんで、今年あと何回来るんだろうって。5年先でほれをかけたなら、30回は来るわなって言ったので、みんながこの土地くださいって言われたらみんなでうんと言いますので、よろしく願いますとのことなんです。それと中学生がですね、天気予報で台風がこっちへ来るっていったら、授業の前に1階に

あるものをみんな2階3階にあげるのが授業の半分になるということなので、中学生もみんなそういうことをお願いしたいとのことですので、お願いいたします。それと、よく水は方円に従うっていうことで、水ってというのは丸い所に入っても四角い所に入ったりも非常に恐ろしい力があるのでですね、深瀬に土手を作っていただいて、またその中学校周辺に堤防がきちっとしたのができて中学校が浸からなくなったら、今度この吉井、深瀬のほう今土手がとても古いんですね。で、那賀川の河口で南海地震の対策みたいに土手を非常に津波対策で補強とかされてるのと同じように、加茂の土手と並行してですね、楠根、吉井の土手の補強とか点検を並行してお願いできたらと思います。こないだも浸かるとこ昨日の雨、C委員さんも昨日の雨すごかったって言よったんですけど、流れが深瀬の土手ができて流れが変わって、今まで浸からない所がちょっと浸かったりとか、水の力は恐ろしいので、その点をお願いいたします。

それと次2点目ですが、先ほどから移住者の方が出て、D委員さん阿南市なんですね、はじめまして、よろしくお願ひいたします。心強い方が来てくれております。で、浸かる町、水害の町加茂谷という嫌なイメージのある中で、加茂谷元気なまちづくり会というのがございまして、空き家に移住してもらえるような運動を中心にしてしております。前の会に、阿南市にはまだその窓口が十分でないと発表しましたら阿南市が早急に移住促進課を作っていただきましてありがとうございます。ようやく窓口もできて、9月7日にはサテライトオフィスの方もオープニングということで準備が進んでおります。ただ、迎えるに当たってですね、上勝とかは県がでしょうか国がでしょうか、わからないんですけども、古民家を、見に来た人の泊まるどころとかのそういう施設、運動している人のための施設ができて、ホテルに泊まらなくてもそういう古民家に泊まったりするような、なんというか設備というか、県とかがするのが充実しているんで、それもできたら県南の方にも充実をしてもらいたいと思います。で、その中でですね、地域おこし協力隊員ていうのを今要請をしておるんですが、町とかにはあるんですがまだ市ではそういうのがまだ来てないので、動いてくれるという話しですが、今加茂谷に2、3件問合せもあって、加茂谷に移住してきたいっていう方が2、3軒おるんですが、水害の町っていうことでちょっと足踏みをしたりしているんで、是非ともそのそういう地域おこし協力隊員にも、市の分野でも取り入れていただきたいと思います。

そして最後にもう一点ですね。遍路道を考える会というのがありまして、太龍寺と鶴林寺を中心に活動を行っておるんですが、中学校の横にお松権現の由緒ある五反地っていう所、駐車場を提供してくれて、今使わしてもらいよんですが、トイレがないんです。コンビニもなくトイレもなく、加茂谷中学校のトイレを公共みたいに使わせてもらってるんですが、今加茂谷中学校の建物の前に私が中学校の時からある使っていないプールがありまして、そこを何かのために防水の水、防火用水ということでほってあるんですけども、水も入ってないし草ぼ一ぼ一で、また中学生とかPTAが管理、草を刈ったりとか管理が大変なので、駐車場にさせていただいて、公共のトイレができれば非常に何かあったときにもいいのではないかという声もありますので、よろしくお願ひいたします。以上です。

(局長)

ありがとうございました。ひとつおり委員の意見をお伺ひいたしましたが、2点質問がございまし

た。まず事務局の方から答えさせていただきます。

まず1点目のビジターセンターに対する取組みについて、お願いします。

(保健福祉環境部長)

K委員さんからビジターセンターについてご質問いただきました。昨年度、ファガスの森にビジターセンターをと、御意見をいただいたところでございます。私どもとしましては、剣山周辺の素晴らしい環境の情報発信ということを、南つるぎ広く言えば剣山の活性化のために非常に重要なことと認識しているところでございます。そうしたことから、ビジターセンターの名称については環境省と協議を行いまして、可能であるとの確認をとっております。また、パネル等の整備につきまして地元那賀町さんと連携をとりながら、前向きに検討を進めさせていただきたいと考えております。

(K委員)

よろしく頼みますよ。

(局長)

ありがとうございました。それでは希少植物の件については後ほど話をさせていただきたいと思えます。

「徳島県過疎地域自立促進方針（素案）」にかかる意見

(D委員)

過疎ということで、人が出て行ってしまいか減少してしまうということを解消するために、もちろん出て行ってしまふ人をなるべく留まっていたと同時、人口を現状維持するのであれば、やはり外からも来るということが大事になると思うんですけども、ごめんなさい、ちょっとお名前見えないんですけど、先ほどの最後に意見述べられた方、L委員さんがおっしゃっていたように、たとえば外から来る場合って、いきなり移住とかしないんですよ。絶対にできないし、すごいおっきな決断なんで、必ず下見が必要になるんですよ。でも県南地域って、下見したくても滞在するところが無くて、私も下見をしたんですけども、そのときは木岐ってところになんかちょっと公民館を開放してくださっているそういうシステムがあつて、家族4人で調理室使わせてもらえるので自炊ができて、それで家族4人で1泊7千円ぐらいで泊まれたんですよ。でも下見するのって、何泊がやっぱりしないといけないので、本当にホテルに泊まったりだとかすると、もうばかにならないんですよ。なのでそういうところに泊まれたから何日間か滞在して、横浜から車に来るわけにはいかなかったの、電車乗り継いで高速バス使って木岐まで行って、今度レンタカーを借りて、でもレンタカーがあそこでは借りれないから徳島の駅前借りて、レンタカーに乗ってっていうことをしたんですけども、本当に下見がないと絶対に移住なんかできないので、そういう部分がいわゆる外か

ら来る人のすごく欲してるというか必要な部分なので、そういうのが整備されたらありがたいと思います。それと、やっぱり徳島って、徳島駅というか、そこまでは大体来れるし、たとえば飛行機もびゅーんで来れるので、徳島県としてみれば人は来れるんだけど、なかなか県南に来るのが実はすごく不便で、汽車で来ようと思っても1時間に1本とかあと阿南止まりでそこから先が来れなくて、じゃあ車でっていてもレンタカーは駅前とかで借りないと多分レンタカー屋さんにはなかったと私は記憶してるんですけど、なので車で来たらどうですかなんて言われても、いや車で来てないので駅まで来ました、じゃあどうすればいいですかっていうといや車で来て下さいって言われて、だから車がないつつてんのになって、本当にね、そういうちっちゃなところが、かゆいところに手が届いたらいいのになって、すごく思います。それとさっきも私言ったんですけど、子育てをしていると子どもが少ない地域ってなかなか来ないと思うんですよ。だから子どもは少ないんだけど、公立の小学校中学校で子どもは少ないんだけどすごく自然を活かしたなかなか都会ではできない小学生生活を送れるとか、何かそういうこう、公立の学校とかだと多分文科省とかそういうのやらなきゃいけないことがあって全国一律の授業やらなきゃいけないとは思いますが、なんかせっかく空気が綺麗で自然がたくさんあってなんだけども、教室に入って授業をしなくちゃいけない都会と同じ事やっているので、なんかこうこういうところで子育てしてここの学校行かせたいなっていうのになつたらもうちょっと、まあでもほんとにこんなイメージだけなんでどうにか言ってるだけなんですけど、なつたらいいなって。子育てがある程度終わったらもしかしたらまた戻ってしまうかも知れないんですけども、子育て世代というのは、毎年毎年満遍なくいるわけなので、子育てはここでしてまあ一通り終わったらもしかしたら出ちゃうかも知れないけども、そういうふうに毎年毎年ここで子育てしたいって人が県南に来て子育て、充実して自然の中で子育てっていったら、その間にももしかしたら外には出るけれども、また外で生んだ人が自分はここで子育てすごくいい環境だったから自分も子育てここでしたいなとかいうのになるのではないかなと思うので、教育の面でも、人数が少ない、子どもが少ないっていうのを、マイナスじゃなくてプラスになる子育て環境、学校環境を作って欲しいって思うのと、じゃあどうすればってときにはやっぱり都会の人のニーズとか私も自分もそうだし、外からちょっと考えてるんだっていう人の声集めたりすることもできるので、そういうのをうまく組み合わせ取り込めたらいいなと思いますので、よろしくをお願いします。

(I 委員)

第1次産業っていうのはね、なかなかね、今チャンスなんですけれども、なかなかT P Pとか色々あって難しいところもあるんですけども、先ほど私もD委員さんが言われたように、農業だけじゃ厳しいだろうなというところがあるだろうし、林業も、林業だけはちょっと厳しいだろうなというところもあるだろうと思うんです。この辺をまあ、大きい事業者さんとか森林組合さんはそういうところはあまりというか、集約化でもどんどんできてますので大丈夫だと思うんですけど、ちっちゃいあの、前から言わさしてもらってますけれども、そんなに持ってない人でも、どこかその今あまり山に関心が無い山持ちさんというんですかね、そういう方がたくさんいると思うので、そういう風なところと、高知だったら海のカヌーとか、そういう風なとか組み合わせやっていますので、農業と林業と

か、農業と水産、水産業ができるかどうかわかりませんが、異業種のところと組み合わせるようなそういう何かができたらやはり、山を託すっていう部分には公的な方の何かがあれば安心して任せられるんですけども、個人対個人やったらなかなかそれができにくいところがあるので、そういうマッチングっていうんですが、そういう風なことも考えていただいたら、大きい所と小さい、少しの面積でやろうかなっていう人たちが、大きなものでなくて、ちっちゃい経費がそんなにかからない機械を使ってできるような、おっきい所とちっちゃい所の組み合わせみたいなんでV S東京の方へ向いてずーっと行っていただければ有難いなと思います。

(J 委員)

移住のことですと以前から疑問に思ってたので、小さな問題かも知れないんですけども、お聞きしたいことがありました。私も大阪生まれではあるんですけど、この豊かな自然の土地に永らく住んでいながら、自然の中にいるよりはコンサートホールとか劇場とか客席に座っているのが好きな人間なんです。であの、移住して来られる方とかサテライトオフィスでクリエイティブな仕事をなさってる方達にとって、文化・芸術ということを希求されていないのかなっていうのがとても疑問だったので、どっかで話したいなと思ってます。少しコマーシャルになりますけれども、V S東京ではないですけども夢ホールで、もちろん東京が呼べるような世界的アーティストを招聘するのはなかなか大変なんですけれども、何故阿南にこんなすごい人が来るのと言われたこともありますし、東京でできないことを夢ホールで、夢ホールって言うてしまうとあれなんですけど、作っていかうと考えてます。そういう小さな文化的なものも、地道ながら作ってるっていうことも、阿南じゃないや、徳島県の売りとかにさせていただけたらなって思うのと、文化的・芸術的なものは要らないのかなっていうのはおかしいですけども、移住の方に機会があれば教えていただければなって思ったので発言させてもらいました。

(海陽町長)

G 委員さんから海陽町のことについてご指摘をいただきましたので、1、2点お答えをしたいと思います。先ほどもありましたように、健康保険・医療も含めての、それとあいあいクラブとのシステム化についてでございますが、ほんとにG 委員さんがおっしゃっていただいたとおりでございます。私どもの海陽町にはね、今言よるように保険関係の課3課が海部庁舎にあります。その上に社会福祉協議会もあります。そして愛♥あいクラブもその同じ横ですけども同じ庁舎内にあります。そういったことで大変こう、連携をしていきやすいというような状況にあります。十分担当課とお話の上でそういったシステム化ができれば本当に総合検診を受けた後でカウンセリングをしていただいて、そして愛♥あいクラブの、フィットネスクラブというかそういった機械を十分利用していただいて運動できれば、循環をすることができると思いますんで、是非そういったシステム化に向けて、福祉課・保健環境課等々で話し合っていたらなと、社協も含めてであります、ありがとうございます。

それと、同じように道路の問題が出ておりましたけれども、D 委員さんもちらっと話しておられましたけれども、本当に私昨日もね、実は4時に起きまして、5時半に役場を出て、東京へ行ってきま

した。いつも昼から会があるときは東京日帰りができるんです。ただ6時に出ますと9時の飛行機に間に合わないんです、ちょうど勝浦橋辺りが混みまして。ですけれども、5時半から5時45分の間に出ると、7時半の第1便の飛行機がまだ飛んでいないときに着いて、阿波おどり空港で朝ご飯を食べて9時の飛行機に乗るんですが、昨日も県の方と一緒に、また隣の牟岐町の町長さん、そして東洋町の町長さんと一緒に、阿南安芸自動車道の牟岐野根間の早期着工についてお願いに行ってきました。先だって知事さんも、四国整備局長さんに1日も早く阿南安芸自動車道ができますようにというような発言もしていただいております。本当にあの、海陽町から阿波おどり空港まで2時間15分、そして阿波おどり空港から東京へ行って、東京からお仕事する所に行くのにちょうど2時間です。ですから本当に、阿南安芸自動車道ができたら徳島は1時間ちょっとで行けるかなと、そんな思いで私達も頑張っていますんで、アンケート等色々なことで住民の方も御協力いただけたらなと思います。ありがとうございました。

(美波町長)

美波町長です。よろしくお願ひします。

今地方創生ということで、私達は総合戦略を作るということで今非常に、住民の皆様方の知恵をいただきながら、知恵を結集するという形で取り組んでいるところであります。でその地方創生の一つの肝は、私が思っているのはやっぱり人口の維持っていうように思っています、昨年移住交流のいわゆる田舎暮らしセミナーっていうのを有楽町で2回ほどやらさせていただいて、それがご縁で地域おこし協力隊の方が来られたというのもございます。で、その田舎暮らしセミナーをしたときに、来て下さった方の御意見といいますか、御心配事の中の一つに、美波町は津波が来るんでしょと、その辺りはどないなってるんですか、というようなご質問をいただいて、まずまあハードといいますか、モデルというような基本的なところはお話したところがございますけれども、やはりあの移住をしていた方にとっては安全というのが基本になるっていうようなところがございます。そういったこともございまして、今美波町では事前復興っていうようなことについての取組みを進めているところであります。一点知事さんの方に、徳島からの提言の中に入れていただけたらありがたいな、という点をお願いしたいところは、まあ高台移転でありますとか、色々なことを事前復興の中でやっていこうということで当初進めておまして、まあ現在もやっているんですけれども、なかなか全体的な補助制度というのは難しいということで、いわゆる防集っていう集団で移転する場合は大丈夫だっていうところがありますけれども、私どもの町のように、特に由岐地区というと97%が浸水区域というようなところではなかなか集団で移転するのも難しいというようなことで、今日は委員さんである酒井さんが欠席されているということですのでけれども、もし来られてたら発言してたかなという風に思うんですが、事前復興計画をするときに、震災が来る前にすることと震災後にやることを、分けて考えていきましょうというような今は進め方をしております。何もかも震災前にやるんじゃなくて、震災前にやることと震災後にやることということで、B委員さんからもありましたけれども、それも国の全体からみればお金のいわゆるまあ資金を投下するにあたって、非常に効率的ではないかっていうように思っております。そんな中で仕分けをしながら、何もかも国のお金でやってくださいっていうのはま

あなかなか難しいところがあるので、そういった事前復興の中でも震災前にやるもの、震災後にやるものっていうのを仕分けをして、ここは県の職員の皆さん方のお知恵をいただきながら、何が、これだったらいけるんじゃないかと、たとえば補助制度を作る、それから起債制度を作る、っていうようなことができないかなという風に思っております、実は今年、これは町と自主防災会とそれから徳島県の建築士会が共同して、由岐地区のところにコンペ方式で15戸ぐらいの住宅を事前に作るようなそんな試みをやってみようというようなこともしております。それはコンペをして、そこで津波の影響のない所にわずかですけれども15戸の建物をどのように配置するか、それで中にはコンペに参加される方にとっては公共施設を配置してはどうかとか、住宅をとかあるかもしれませんけれども、そういったものをいただきながら、事前にそれをすることによって、震災前過疎って言われる若い人が震災が来る前に出て行くっていうのを止めようというような意味合いもございまして、そういったことをするのにあたっては、今は補助制度なかなかないんですけども、そういったところをうまく何か国の補助制度に乗れるようになっていうのを是非とも次回・次々回の徳島県の提言の中に入れられるように、また私どもも個別に担当課の方とお願いしようと思っておりますけれども、その辺りまたお願いできたらと思います。

(牟岐町長)

振興計画と過疎地域自立促進方針についての意見ということなんですけども、特に意見というのはないんです。本当にいつも感心する程ですね、色んな方面に気を配っていただいて、計画を策定していただいているので、有難く思っております。

申し上げたいのは、現在ですね、美波町長も言われてましたように、地方創生ということで計画策定しておりますけども、とにかく役場、マンパワーが足りないんですね。今日も牟岐町の面々が参加しておりませんが、実はあの英語村、今英語村って言ったらいかんですけれど、サマースクールって言わなあかんですけれど、今サマースクールで皆さん出払っておりますですね、何かやれば人がいなくなるんです。で、かつてはハーフマラソンやりましたけども、若い方それから消防団、皆さんがボランティア協力してやってたんですけども、これはなんのためにやっとなんと、自分達に何もこの、利益がないじゃないかということですね、途中からやめてしまったんですよ。とにかくあの、そういう余力がないというか、マンパワーとしてのね。だから過疎が進むと本当に対応はしにくくなるなと思っておりますけれども、今はサマースクールにしてもですね、徳島県さんのお力をいただいております、まあ運営しとるような状況でございます。それから海部病院の移転もですね、高台移転も、徳島県さんの力でほとんど工事発注していただいているような状況で、なかなか自ら企画して何かやっていくっていうのは非常にやりにくくなっております。そういう中で、1次産業の振興はなんとしてもやりたい。それから観光振興もやっていかないかなと思っておりますけども、こういう過疎の進んだ町で観光振興というのはですね、今から何か新たにやるというのは非常に難しいんですけども、これまでの先祖が築いてきた財産を最大限活用するということで、まあ空き家であるとか、それから田畑の景観ですね、こういうのを最大限活用する必要があるんですけども、これも今人がいなくなって荒れてるんですよ。だからこいつをまず復元する、元に戻すっていうのが一番最初かな

と思うんですけども、これが本当に難しく今頭悩ましているところでございます。それと1次産業の振興ですけども、農林漁業者の方がですね、それだけでは食っていけないということで、皆さんギブアップしている方が多くてですね、積極的に必死に取り組んでおられる方がどんどん減っていついてるんで、個人経営はこれから1次産業非常にうちの場合は難しいなど、ほとんど諦めとるようなところでございます。従いまして、できましたらですね、まあ大企業まで言わないんですけども、中堅企業の方が、たとえばイオンみたいなのがですね、末端の消費動向を十分理解しとるような方が農業部分に入ってきていただく、こういうような取組みがですね、本当の過疎では必要でないかなと思つとるところでございます。で、こういうような計画に入れるのはなかなか難しいんですけども、なんとか企業の方が農業に取り組んでいただくようなインセンティブをですね、まあ国とかが作っていただけることをいつも期待しておるんですけども、機会がある毎に国会議員の先生にもお願いはしとるんですけども、それしかなかなか1次産業が復興する道筋は見えないなと思つておるところでございます。それとあの、I委員さんがおっしゃっていたようにですね、牟岐町も山が非常に荒れております。昔はシダ類がですね、木の下に生えてたんですけども、この頃それがなくてですね、さぎっちょさんというイベントをする場合でも、シダ類がほとんどなくてですね、遠い所まで取りに行っています。で、山が荒れているっていうことは、東北とか北海道の漁師さんがよく言ってますように、海が荒れると。海が痩せるといふかね、魚がとれなくなるということをおっしゃるんで、なんとか山の復活が漁業の再生にもつながるのかなと思つてるんですけども。これもあの因果関係はっきりしとるわけではないんですけどね。これも人の力ばかり頼って申し訳ないんですけども、やっぱり企業が入っていただかないと競争力という意味でですね、なかなかグローバルに戦っていくためには個人ではなかなか難しいんじゃないかなと思つているところでございます。

以上です。よろしくお願いいたします。

(那賀町長)

那賀町、ほんとにこう地方創生という施策の中で、人口減少についてはこれ、全国でも有名になりました。9000人から3000人台ということで、先般も東京で、石破大臣にご挨拶をさせていただいた、途端に大臣の方から「あ、那賀町ね、人口減少大変ですね」とそれぐらい有名になってるんですよ。でまあ町としては、今に見ているそうはさせないぞ、と言つてはおるんですけども、やはりなかなかこの課題は非常に難しい課題ですが、町としてもやはりそうした中で、定住の人口、そして移住、そしてまたその中で、雇用、働く場の確保ということで、やはり来ていただくためには生活収入を得ていかななくてはなりません。そういった施策を今後進めていきたいということで進めております。農林業の推進についても、先ほどから色々と森林組合長さんからあったように、そういったことで那賀町としてもやはりこの、林業の再生ということなしにはなかなか難しいということで、そういうことも進めているわけなんですけども、やはり企業さん、あるいはまた林業の定住に、移住していただく方についても先ほどからL委員さんからも出ておりますように、やはりこの課題解決の基本戦略の中の1番、安心・安全。やはりこれはこのことと、3番の交流が広がる地域づくりのカッコ3の地域交通体系の整備促進。これがやはり基本になります、那賀町としては。やはり大塚さん、テクノさん、

また新しい企業さんについても、阿南まで高速道路が来れば規模を拡大しましょうということも言われます。そしてやはりそうした中で、移住あるいはまあ那賀町で留まってだ、ということについても、まあそうはいうても驚敷でも浸水するでないかと言われればなかなか理解していただけないというのがあります。この2点については是非とも31年を目安と、完成ということで進めていただいております。長安口ダムにつきましても、30年ということでしたが1年延びるときいております。31年度に全て完成ということにいたしております。このことを是非とも、スケジュールどおり完成をしていただきたいと思っております。それ以外の件につきましては、町として取り組めることは最大限取り組んでまいりたいと考えております。先ほど委員さんからもお話していただいたように、各種団体さん、また町民の皆さん方お一人お一人にそれぞれ、できることはやっていただきたいということはお願いしておりますので、町民の皆さんもそういった気持ちで取り組んでいただいていると認識を致しております。そういったことから再度お願いいたします。1番と2番につきまして先ほど申し上げた件、是非とも、できれば1年でも早く完成をしていただければよいをお願いをして、私からの意見とさせていただきます。

(阿南市長)

貴重なお時間でございます。簡潔に申し上げます。今日阿南で会を開いていただきありがとうございます。D委員さんが移住をしていただきましてですね、阿南市の移住なりプロモーションビデオにはD委員さんのご家族が出演していただいております、D委員さん周りの友達に恵まれたっていうのもありましたね。色んな人が心配をして、そういう人間関係もあったと思います。決してですね、美波町には移らないように。

先般、2038年に南海地震が来るという本が出版されております。具体的に年数を書いてですね、京都大学の総長かな。そういう本を出版されてまして、これ人ごとでないんですが、昨日阿南市役所で小松島・上勝・勝浦も含みました県南の市町村長と議長さんの会を催しました。高速道路の期成同盟会で行いました。そこでまあお話ございましたように、阿南まで、世界の日垂がある阿南までとにかく早くして欲しい。それと同時にですね、やはりミッシングリンクでございます、甲浦から奈半利まで。宿毛もですね、黒潮鉄道がいつておりますけれども、南予の方まではミッシングリンクですが、しかし中村の方からは内陸部は鉄道がありますんで、純粹に道路もない、鉄道もないミッシングリンクというのはこの室戸周辺なんですね。だから私はいつも声を大にして言っております。こんなミッシングリンクはないんですよ、二重苦ですよと、こういうことを申し上げております。ですからそのミッシングリンクを解消するためにどうしてもですね、今那賀川河川事務所があるんですが、これを那賀川河川国道事務所にですね、レベルアップをしてもらいたい。これを国交省に言いますと、可能は可能なんです。愛媛県であれば松山と大洲にあります。だから2箇所あるところもあるんですね。私は人口流出っていうのは、高速道路が尻切れになれば流出しますけども、周遊しとればね、絶対そんなことない。周遊しとれば、四国をずっと周遊しとればですね、人口流出ないですよ。減っていくことはあってもね、生まれんから。しかし出ていくということはないんですよ。で日本の国ではじめて周遊コースを作れるのは四国だけなんですよ。北海道も無理です。九州もまだまだです。で

すからそれをですね是非、知事さんに県の重要施策の1つとして国交省に訴えいただきましてですね、防災高速道路を作るんだと。

最後になりますが、今伊方が止まっております、阿南市はですね、四国の電力585万キロワット最大であります。そのうちの397万キロワットをこの阿南市が供給してるんです。四国の7割の電力をこの阿南市が供給しとるんです。だから阿南市が無ければ四国の経済回らないんですよ。そういうところに高速道路が無い。おかしい。是非県南の、今日の委員の皆さんも、そういうご認識をお持ちで、今更高速道路か、と東京の人は言いますけれども、いるんです。どうしてもいるんです。これがあればですね、今言ったみんなの意見が実現に向かって前に進んでいくと思いますので、長くなりましたが、是非よろしくをお願いします。

(知事)

今日は本当に、熱心に、また様々な御提言をいただきましてありがとうございます。A委員の方から私に、DMVのね、これは今朝の朝刊にも出てるように、昨日定例会見でも言ってますんで。まあネットでもお話してるように、JR北海道がパテントを持っていた。平成16年、JR四国の皆さんと苗穂に行って、JR北海道の。当時はまだマイクロバスに車輪がついただけのものだったんですけどね。是非実証を徳島で、ていうのは、今たとえば阿南市長が言われた鉄路と道路が無いところ、それを解消するにはこれが一番なんですね。しかも平時においては中山間地域の独居老人の所はバスとして使うことができますし、最寄りの駅に行くとそのまま鉄路に乗って渋滞関係なく行くことができる。またいざ発災となつたたとえば東日本大震災のように三陸鉄道が長らく開通できなかったんですが、これは道路が残るあるいは鉄路が残っていたらその接続が可能なんですね。とするとすぐに復旧ができると、こういうこと。平時・災害時ともに対応ができる、ということで、特にJR四国特に牟岐線ですね、私は知事になって最初にJR四国にちょっと文句言いに行ったことがありますね。牟岐線しか走ってない、つまり徳島県内しか走ってない特急なのに、名前が徳島の名前じゃないんですね。特急阿南とか特急海部だったら納得できる、牟岐でもいい。なんで室戸なんだって、ええかげんにしてくれって。そしたら実はこれは、JRじゃなくて国鉄マンのロマンなんだって。昔は室戸まで鉄路を引く、その意味で阿佐東線も作ったんだ、と。しかし国鉄改革で国もお金が無くなっちゃってあるいは頓挫して。しかし国鉄マンは夢を捨てていないということで、是非北海道一緒に行ってくれということで、DMVを生み出した。だから実はJR北海道も、あるいはJR四国も、もしこれが実現をしっかりとできれば、是非室戸からスタートをさせてくれと。当然ここは道路なんだけどね。それで特急室戸の看板を付けて、そして阿佐東線では鉄路に乗ってそのまんま徳島まで行くと。これが彼らの夢ということで、JR北海道は夜間の実証とか最終の実証の部分を阿佐東線で実はやってくれたんですね。ところがJR北海道今様相が変わりまして様々な出来事が起こるとともに、いよいよ九州・北陸とうとう新幹線が北海道に渡るんですね。ということであらゆる技術をそこに投入したい、それ以外は構ってられない、ということがありまして、まあ今回開発を断念すると。しかしここまで来た、しかも北海道の場合には克雪対策、徳島の場合にはそれがいらぬんですね。昨年12月には大豪雪がありましたけど。まあそうしたことで我々としてはJR四国と組んで、もちろん国土交通

省との連携がある、最終許認可をするのは彼らですんでね。そうしたものを是非くつつければなど。そうすることによっておそらくこの県南、先ほどD委員さんが言われたことも、全てこれで解消が実はできる。たとえばヴォルティスの試合で、ポカリスウェットスタジアムまで鳴門からそのまま走っていけるじゃないですか。だからこうした未来の技術っていうの、リニアモーターカーもいいんですが、これからの地方創生考えると、リニアをばんばんねえ、どこでも走らせるわけにはいかないわけですから。DMVこそね、早く開発をしないといけないということで、我々としては北海道が断念をしたこのピンチを逆にチャンスに切り替える。できればJR四国と組んで、この開発を逆に徳島で、そして四国でやっていこうと。新たなスタートを切るキックオフになったんじゃないのかなと、このように思っております。

あと多くの皆さん方から様々な意見をいただきました。ま特に地方創生そして移住なんだ、という中で、実はこの点E委員からあるいはD委員からもいただいたんですが、窓口ないじゃないかっていうことですね。これについてもワンストップサービスをつい先般、これはクレメントプラザ、あそこにハローワークあるんですけどね、あの中に移住交流の促進センターと2人のコンシェルジュ、これは県として置かしていただきまして、今お話があったような点、現場にたとえば1人が行って1人が必ず常駐でそうしたものにワンストップに対応していく、そして地元につないでいく。D委員さんの言われた点なんですけど、実はたとえば美波町あるいは神山町がどうしてうまくいっているかという、地元のNPOの関係なんですね。J委員からNPOメリットないよなんて話があったんですが、実はこれに大いにメリットがありましてね。先ほどお話しがあった税制もありますし、あとは法人格をしっかり持てるので契約の相手方になっていく、あるいは公の契約の対象になる、ということがありますし、そうした意味で税制もこれからどんどんメリットが出てくると思いますんで、こうした点についてぽんぽんと呼びかけをしていく。日本はまだまだアメリカと違ってNPOの使い方が下手って言われているんですね。だからそうした声をどんどんあげていく、うちはこんなことやってるんだから、これに対してもっともっと、ふるさと納税じゃありませんけど支援をしてくれ、そしたらこんな税制特例ありますよと。もちろん県についてもそういうPRをさせていただいておりますので、是非こうした制度は活用をしていただければと思います。ということでそのつないでいただく、行政と地元をつなぐNPO、あるいは地域の団体というのが実はこれから地方創生の大きな肝となってきますんでね。是非こうした点について今それぞれの市町村におきまして総合戦略を作っていただいておりますから、ま是非そうしたものの対応を入れていただければと思います。

またこうした中でいただいた学校の新しいあり方として、人数が少ない場合にどうするんだと。実は徳島からもう既に文部科学省に提言をし、実証をこの県南地域で行っているのが、チェーンスクール。本来だったら統廃合になってしまう小学校・中学校、これを阿南地区で一つの中学校に二つの小学校、この三つを三位一体として共同での運動会であるとか、そうすることによって結果として9年間の一貫教育、これを行うことができるんですね。てことで数的にみると数もある程度いる、そして学年に幅がある。上のお兄ちゃんお姉ちゃんが下の子の面倒を見る。昔のような様子になってくるんですね。都会にはない様子といったものを作っていこうと。あるいは今サテライトオフィスが徳島にどんどん入っています。とうとう美波町が神山町に追いついて12になって、ともに12なんですけ

どね。そうした点で実は大人は来るんだけど、子どもが転校の措置が大変だったことで、ここはデュアルスクールを今提唱させていただいています。たとえば世田谷区からこちら美波町に来た場合に、じゃあ美波町の小学校と世田谷の小学校とお互い結び付けると。そして転校措置をしないで、その代わりに美波町の小学校にはその受けるための学級を作る。そしてお互いたとえば世田谷がメイン校だったらこっちがサテライト、という形で、自由に子どもさんが行き来をできる。学習進度についてもしっかりとチェックをできる。こうしたところ今提言をしていって、最終的には国がどう取り上げていくのか、もうこの段階まで。チェーンスクールあるいは他の社会福祉施設などをセットにするパッケージスクール、これについては逆に文科省の方から、施策の実証としてやってくれという段階になっています。

こうした点で是非皆様方におかれましても、この地方創生、いよいよこれは国の本気度と地方の覚悟、そして実はこの国にやってくれとか、県にやってくれでは、新たな交付金も出てこないんですね。これは我々がやる、自分たちの先ほどもあったように特色、どこもここもが競うわけでありますから、金太郎飴ではダメなんですね。うちはこんな点が本当に特色あるといったものをいかに発信をするのか。だから徳島としては24市町村、これが徳島の市町村なんだと、あるいは徳島の企業の皆さんなんだ、徳島のNPOだと。こうしたものがわかっていたくために、まずターゲットが東京をはじめとする東京圏、1都3県。ということでVS東京を今出してるところで、確かに県内で今一つまだ広がってないという声もあるわけなんですけど、東京はじめ東京圏の皆さん方はもうほとんど知ってるんですね。だからよく徳島の企業の皆さんが東京に行って名刺を出す、あ、徳島の企業の皆さんですか、VS東京の徳島ですか、と言われて何ですかとなったら1時間説教されるっちゃう。んで戻ってきてみんなに言う。だから徳島ってのは私昔から思うんですけど、典型的な日本ですね。つまり舶来志向。つまり外側から言われるとこれはすごい、徳島すごいんだって言うのね。本当は徳島の中において徳島すごいんだよって言って欲しいんだけど、外の人に言われるとはじめて、いやいやすごいすごい徳島すごいんだよってこう言われたよってね。いや自分で言うよってね。ここのところがこれからのポイントで、やはり日本が今までどうしてもこう舶来志向と言われてそういった意味では、徳島が変われば日本が変わると、そうした感じがするわけでしてね。VS東京はその一端ということでもあります。

また美波町長さんからいただいた点については、実はこれ9県知事会議を催しております、そして既にこれ特措法、南海トラフの特措法ができて、で美波町はほぼ全域がいわゆる特別強化地域になって、補助金が2分の1から3分の2に上がる。ただこれは集団移転、先ほど言われたね、の部分しか適用にならない、ということになっていますので、実は9県でもこのメニューの拡大、たとえば先ほど言われたような、まさにそういうことでありますので。既にこれ9県として提言をさせていただいておりますので、もちろん徳島単独としても政策提言をさせていただきますが、ここはしっかりとスクラムを組んで、まさにこの那賀町を除く4市町がそのエリアになっていますので、しっかりと対応していきたいと思えます。

それからまた那賀町長さんからいただいた、河川の整備と高速道路。これについては…同じ目標数値になっていますので、これは国とともに、あるいはNE XCOなどとともにしっかりと取り組んで

いきたいと考えております。

また阿南市長さんから話がありました、この周遊の問題ね。先ほど言われたように、これは8の字として四国4県でどんどんやっていくのはもとより、我々としてはもう一つ、DMVの活用。これももう技術的には最終段階に来ているものでありますので、決してうまくJR北海道からこちらへパテントを移すことがもし仮にできれば、そう遠い話ではない。そう考えておりますので、両面で対応をしっかりと。

また那賀川河川事務所、これに国道を付ける、こうした点については新たな視点として、今後阿南海部道路ですね、室戸阿南この辺りについての道路の進捗が進んでまいりますし、牟岐バイパスの関係もありますのでね。これを一つの切り口として、セットでもって提言をしていければと思っておりますので、またよろしくお願ひ申し上げたいと思います。

ていうことで、皆さんからいただいた点につきましてはしっかりと捉えさせていただきます、そしてこの地方創生、この中に具現化を図っていければと。ただ一つ申し上げておきたいのは、地方創生の場合には石破大臣は決してハードではないと、こうした話。その意味では先ほどH委員さんから一生懸命ソフト、これを一生懸命やってるんだから那賀町はと。ソフト対策が中心となってくるわけですが、国土強靱化、こちらの方の対策として、ハード。これは災害対策から平時も使う。普通は平時で災害時も使えるっていうんですがその逆として、これは対応をしっかりと徳島としてはやっておりますので、是非これは地元の皆さん方の御理解・御協力が必要となりますので、よろしくお願ひ申し上げたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。